

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和7年1月20日

事業所名 放課後等デイサービス 一步すてっぷ

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点や課題・改善すべき点など
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			1日の定員に対し、東京都の規定による広さを確保しています。
	② 職員の配置数は適切である	6			1日平均して、常勤・パート合わせて計5～6名での体制で組んでいます。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			現在、バリアフリー化はされていませんが、必要に応じて対応していきたいと思います。
業務 改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	3		毎始業時や月1回の全体ミーティングの中で、より良くしていくための話し合いや、研修会を行っています。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			年1回実施し、無記名にて保護者の方から回答していただいています。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			一步のホームページ内にて、アンケート実施後に集計結果をPDFで公開しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6	適切な形態かつ、有効性のある形であれば、取り入れるつもりですが、現在は予定していません。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	3		月1回の全体ミーティングや都主催の研修、関係機関の研修受講の機会を設けています。今後もアセスメントのあり方や事例検討などを通して、実際の支援に役立つ内容を取り組みたいと思います。
適切 な 支 援 の 提 供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			面談は必ず児童発達支援管理責任者を含むスタッフで対応し作成しています。必要に応じて1～最長でも6ヶ月の期間で見直しを行っています。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3		療育機関による評価をもとに、発達状況と適応実態を把握しアセスメントを行っています。引き続き全スタッフがアセスメント技術向上を図れるよう研修を行っています。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			常勤・パート職員を問わず、全員で意見交換をしながら、季節や発達段階に合わせた活動内容を立案、計画を立てています。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			曜日や児童に偏りがないよう月ごとに、新しい集団ゲームの提供を行っています。また特性や年齢に応じておこない、一律にプログラムを取り入れておりません。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			平日は体方面に配慮しつつ、状況を見ながら、活動を決めています。長期休みは午前は室内、午後は近隣に外出といったバランスをつけた活動をしています。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			特性や年齢、興味に合わせた活動を提供し、小集団での遊びと個別遊びを取り入れています。面談時には家庭での様子を聞き取りながら作成しています。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	6			支援開始前に前回の状況や送迎時間、体調などの情報を共有し、活動内容やそれぞれの役割など確認しています。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			活動日誌に記入し、全体で共有できるようにしています。終業後は必要に応じて、管理者へ申し送りをしてもらっています。
⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			活動日誌、個別記録を複数の職員が記入しています。また定期的に個別記録の内容について情報共有しています。	
⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			最低でも1年に2回(6ヶ月毎)保護者の方と面談をおこない、必要に応じて個別支援計画を見直しています。モニタリングは全職員と意見交換しながら随時おこなっております。	

チェック項目		はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点や課題・改善すべき点など
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	①9 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6			単年度の事業計画を立て、ガイドラインを職員間で閲覧・参照できるようにしています。
	②0 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			必ず児童発達支援管理責任者を含め、複数で参加するようにしています。
	②1 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			連絡帳、送迎時、電話、FAX、メールを活用した連絡方法を取り、必要な連絡はすべておこなっています。また必要に応じて学校と直接やり取りをしております。
	②2 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	5	昨年度に続き医療的ケアの必要な児童は受け入れていません。
	②3 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3		保護者からは就学前のアセスメント表などをご提供いただくこともあります。
	②4 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		1	5	卒業生はまだいませんが、保護者の要望に合わせて情報提供をするつもりです。また卒業に向けての進路相談や就労相談もおこなっております。
	②5 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		施設公開や説明会、研修会には可能な限り参加をし、担当者の方との連携に努めながら、助言をいただくこともあります。
	②6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6		計画的に行うことはありませんが、近隣の公園などでの自然な交流の場が生まれる事はあります。
	②7 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	6			定期的な児童部会や放デイ連絡会に限らず、必要な場合は個別に関係機関などと連携に努めています
	②8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			毎日の活動の様子を連絡帳やメールを活用、送迎の際にもお話しをして、その日のうちに保護者に伝えております。状況や課題についても逐一報告しております。
②9 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3		ペアレント・トレーニングという形ではおこなっておりませんが、子どもとの関わり方や環境整備について相談に乗りながら、支援をさせていただいております。	
保護者への説明責任等	③0 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			利用契約時に、運営規程や重要事項等は書面でお渡しし、面談時に口頭でもご説明するようにしております。
	③1 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			利用児童だけではなく兄弟・姉妹の関係についても適宜相談に応じております。
	③2 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4		年1回の保護者会を開催するほか、親子参加型のイベントも企画しています。
	③3 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			支援や活動の内容についての疑問点や不明点、または児童の変化に対しては、すべて責任者が迅速かつ即時的に対応しております。
	③4 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月1回、お便りを発行をしています。また、ホームページにおいてもブログを随時更新しております。
	③5 個人情報に十分注意している	6			全スタッフに対して日頃より個人情報の取り扱いについて注意喚起をしています。
	③6 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			文書の残る形で説明やお知らせをするようにしています。内容によっては、行き違いを防ぐため、出来る限り対面でお話しさせていただき、記録をとるようにしています。
	③7 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		現在、招待するようなイベントを組んでおりません。今後は、前向きに検討していこうと思っています。
	③8 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			冊子またはプリントにして配布と施設内に閲覧できるようにしています。
	③9 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			年に2回の避難訓練をしています。近隣公園や避難場所への避難誘導と説明をし、訓練ごとにスタッフでの反省会を行っています。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点や課題・改善すべき点など
非常時等の対応	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			定期的に虐待についての討議の機会を設けながら、外部で行われる虐待研修には多くの職員が参加できるようにしています。また支援時には様々な観点から複数で対応しています。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3		身体拘束が必要な子がおりません。どのような形であれ身体拘束、隔離などの対応はいたしません。仮に必要性が生まれた場合は、必ず保護者・本人に説明しながら行うものとしています。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			原則として医師の診断に基づいた保護者からの申し出により対応しております。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			いつでも記入できるよう用紙を設置しファイルしており、定期的な中から事例を取り上げて、ミーティングなどで全体化しています。